子も親も共に育つ 目指せ共育のまち

逗子市では、「共育のまち推進プラン」の策定、子どもたちの自由な活動のための体験学習施設「スマイル」の設置、「（仮称）こども発達支援センター」の整備など子育て支援に重点を置いている。平井竜一逗子市長と全国共済神奈川県生活協同組合（全国共済）の上関康樹理事長、よこはまチャイルドラインの徳丸のり子代表理事が、現在の子育て支援の取り組みや問題点、今後のビジョンについて話し合った。

※文中敬称略

【出席者】
平井　竜一 逗子市長
上関　康樹 全国共済理事長
徳丸 のり子 よこはまチャイルドライン代表理事
《司会》小野 明男 神奈川新聞社横須賀支社長

福祉と教育が連携 先進的な取り組み

―逗子市が取り組む子育て支援についてお聞かせください。

平井　逗子市は、子どもの居場所をつくるために、五つある全ての小学校区で、生活の場として放課後児童クラブ（学童保育）、遊びの場として「ふれあいスクール」を実施しています。併せて乳幼児も遊べる「ほっとスペース」を設けるなど、子育て環境を整備しています。また、援助ニーズのある児童に対して、細やかな支援ができるように専門的な職員やカウンセラー、全体を指導できるベテランの教員を配置するなどの支援体制づくりも行っています。

今年中には障がいのあるお子さんや発達に心配のあるお子さんの療育的な支援をする「（仮称）こども発達支援センター」の設置を予定。同じ建物の中で福祉と教育が連携した支援体制をつくり、専門的な視点で支援教育をサポートしながら、就学前から就学後、18歳までのお子さんを一貫してケアすることを目指しています。これは県内でも先進的な取り組みなので、今後の試金石になればと願っています。

平井 竜一　逗子市長

上関 康樹　全国共済理事長

上関　子育て支援に関しては地域によって、さまざまな取り組みが実施されていますが、障がいのあるお子さんの支援はまだまだ少ないのが現状なので、全国共済としてもできる限り、お力添えができればと思います。

地域社会をつなぎ 子育て介護を支援

―「共育のまち推進プラン」についてお聞かせください。

平井　自治会加入率の減少、地域における孤立など、地域の中での子育てや介護環境がままならない問題がありますが、地域を再生させるためには、大人と子どもが共に育つ「共育」が大きなテーマだと思います。

昔は地域社会全体で共同体となり機能していましたが、今は縦割り環境になり、横のつながりが希薄になっています。これを再びつなぎ直そうという趣旨で、2014年度から小学校区を単位とする住民自治協議会が立ち上がっています。自治会はもちろん、子ども会、PTA、商店街、消防団などを含めて地域に関わる人たちが一丸となり、地域の課題に取り組んでいます。この機能が発展することで、子育てや介護を支える好循環にもつながるので、今後も土台づくりにまい進したいです。

また、市民中心で行う「子どもフェスティバル」が今年10年目を迎えたのを機に、共育をコンセプトに子どもと大人が共に学びあうプログラムを考えています。それによって、まちまるごと「共育のまち」になることを期待しています。

上関　昔は、公園にたくさんの子どもが集まり一緒になって遊ぶことで、子どもたちが人間関係などを自然と学び成長できました。しかし、今では公園が遊具一つをとっても危ない場所とされてしまい、子どものたまり場としての機能が低下しました。市長もおっしゃるように、横のつながりは大切なので、子ども同士のつながりを築く場所として、今一度公園が活性化することを望みます。

三方よしの理念で 助けあい支えあう

―全国共済の制度についてお聞かせください。

上関　全国共済は「助けあいの心」から生まれた保障の共済。全国39都道府県民共済グループの一つで、非営利団体として地域密着型の事業を展開しています。

万一の備えとして、0歳から85歳までいくつかの年齢層で区切り、その中では男女の区別なく「一律掛金・一律保障」であることが特長です。満18歳から満64歳の方が申し込める保障には、入院・死亡双方の保障をバランスよく備えた「総合保障型」、入院・手術など医療保障が手厚い「入院保障型」があります。「こども型」は0歳から満17歳まで、「熟年型」「熟年入院型」は満65歳から満69歳の方が申し込める保障です。

近江商人の言葉で「買い手よし、売り手よし、世間よし」の「三方よし」という理念がありますが、非営利団体の全国共済としても最大奉仕・人道主義の理念のもと、お預かりした掛金は組合員の皆さまの保障にあてることを基本に、事業利益の一部を利益還元として、病気を患う子や養護施設の子など、一番弱い立場の子どもたちを応援できればと考えています。

徳丸 のり子　よこはまチャイルドライン代表理事

―子どもの電話相談「チャイルドライン」についてお聞かせください。

徳丸　核家族化が進み、周りに相談できる大人がいない子どもたちの専用の相談ホットラインとして「チャイルドライン」を立ち上げました。18歳までの子どもであれば誰でも利用できるフリーダイヤルで、週3回ご利用いただけます。子どもたちに配るチャイルドラインカードは、全国共済の多大な支援もあり、全県に配布できるようになりました。

子どもに歩み寄り SOS届く関係に

―最後にメッセージをお願いします。

平井　昨年、米軍池子住宅地区の一部土地約40㌶の日米共同使用による、池子の森自然公園が開園し、運動施設に続き、今月19日からは、土・日・休日限定ですが緑地エリアの一般開放も始まります。また、逗子市最大の観光資源である逗子海岸海水浴場の風紀を正すために、日本一厳しいといわれる条例を制定するとともに、海上アトラクションを設置するなど、家族で楽しめる海水浴場の姿を取り戻してきました。市の持つ豊かな自然環境を生かしつつ、小さい逗子市ならではの顔が見える関係性を長所にして、市民と地域と行政が密に関わりながら、子どもも大人も笑顔になれるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

徳丸　悩みを抱える子どもがSOSを発信できない、その声が大人に届かないという問題があります。これは大人と子どもの世界の隔たりが原因なので、まず大人から歩み寄るように心掛けてください。チャイルドラインもその橋渡しの一つになれるよう取り組みます。

上関　子どものスポーツイベントや地域活動への協賛や、県内にある全小児病棟に図書を寄贈させていただくなど、微力ながら地域へ恩返しさせていただいております。今後は、ひとり親で子育てに励んでおられる方たちの支援に取り組んでいければと考えています。